



## 出来事と伝説と作家の想像力との「思いがけない」出会い

中村 靖子（ドイツ文学）

「昔からの鉱山で新しい坑道を掘り進めていると、一体の遺体が発見された。緑礬に浸っていて顔かたちは保たれていた。一人の老婆が現れて、自分はその人の許嫁だったと名乗った。」ファールン鉱山で実際にあった事件が新聞で報道されたのは1720年のこと。ドイツの作家ヘーベルは出来事を1809年に移し「思いがけぬ再会」と題した短編を書いた。結婚式を一週間後に控えた若い鉱夫が鉱山で事故に遭い還らなかった。その後リスボンの大地震が起こり、アメリカが独立し、フランス革命が起こり、ナポレオン戦争がヨーロッパを席卷した。その間にも名もない人たちはそれぞれの生活を営んだ。農夫たちは種をまき、粉屋は粉を碾き、鍛冶屋は槌をふるい、鉱夫たちは坑道を掘り進めて一体の遺体に行き当たった。若いままの姿で冷たくなった花婿と、激動の時代を一人生き、老いさらばえてなおその胸に温かい愛を宿した花嫁の50年後の「思いがけない」再会。

この作品はその後多くの作家の想像力を触発し、ギリシア神話やゲルマン神話を取り入れた関連作品が無数に生まれた。しかしそれにしても実際のところ、ファールン鉱山で何が起こったのか？ 医学部の記録では、身元不明の遺体をめぐって過去の行方不明者の探索が続けられる中、一人の老鉱夫が、50年前に鉱山に出かけたまま帰らなかった鉱夫がいたことを思い出したのだという。「きっと彼に違いない。」その行方不明者の名前が報道されると、一人の老婦人が現れ、私はその人の許嫁だったと名乗ったのだ。

新聞による報道記事と文学作品と、学術論文によるこの事件の取り扱いの違い。触発される想像力と文学的脚色が創り出す豊かな虚構世界。その魅力と危うさについて考えています。



ヘーベル『思いがけぬ再会』挿絵

## 人間の「こころ」を身体機能からとらえる

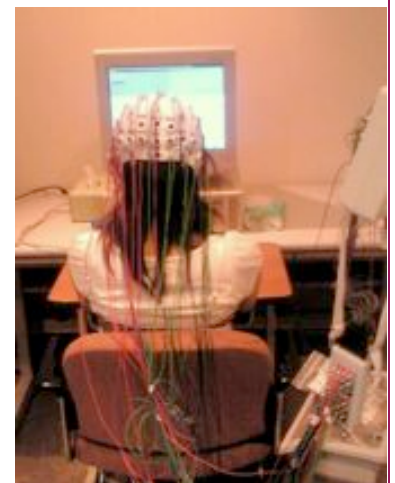
専攻：心理学（環境・行動学コース）

授業名：生理心理学実験演習

この授業では学生たち自らが、生理心理学に関する指定されたテーマの実験を行い、データの分析や考察を通し、テーマの検討を行います。

高校生のみなさんの中には、そもそも「生理」心理学がどのような心理学なのか疑問に思う人もいられるかもしれません。生理心理学とは、人間の行動に関する「こころ」の仕組みを、身体の生理的機能の面から明らかにすることを目的とした学問です。簡単に説明してしまうと、ある心理状態を引き起こすときは脳や自律神経のどこが働いているのか、脳波や心拍などの測定によって研究する学問であるといえます。私たちが行った演習では、自律神経からアプローチするテーマと脳波からアプローチするテーマの2つが指定され、演習を行いました。前者のテーマでは「最後通牒ゲーム」という課題を使用し、相手と自分で金銭の分配を行うとき、不公正な分配提案を受諾／拒否する意思決定や自律神経の反応が、相手が日本人（参加

授業紹介—File56



脳波測定実験の様子

者にとって内集団の人物)か外国人(外集団の人物)かによって影響を受けるかどうか検討しました。後者ではプルチックの感情モデルにおいて近接する感情とされる表情ほど、視覚的識別が困難となるのか、脳波の観点から検討しました。

いずれの内容も、カウンセリングといった一般的な「心理学」のイメージとはかけ離れていると感じた人もいるでしょう。しかし人間の身体のマクロな変化も、人間の「こころ」の仕組みを研究するためには重要な手掛かりとなります。私たちはこのような授業を通して、日々心理学の知識を深めています。

[安藤 由妃 (学部3年, 執筆時)]

授業紹介—File57

## 中世聖徳太子伝の絵解き実践

専攻：共通

授業名：太子伝を解く—絵解き実習

みなさんは「聖徳太子」と聞いて何をイメージしますか。日本に仏教を広めた聖徳太子に対する信仰と、それを支えた「絵解き」という文化をご存知でしょうか。

中世日本において、聖徳太子は「日本の釈迦」として崇められていました。日本仏教におけるスーパーstarである聖徳太子は、早くから伝説化され、物語となり、絵を伴って語られました。聖徳太子の生涯を絵として残した掛幅絵伝は、いまでも全国に伝わっています。この絵を読み解き、人々にものがたりして語る「絵解き」が、中世には広く行われました。仏教とそれを日本に広めた聖徳太子のすばらしさを、絵と物語によってわかりやすく説明し、人々の信仰を集めたのです。

この授業では、学生が実際に聖徳太子絵伝の絵解きを行うことを最終目標としています。授業はまず、漢文体で書かれた聖徳太子の伝記を読み解くところからはじまります。「絵解き台本」と呼ばれる、中世の絵解きに使用されていたテキストが現在まで残されており、その解説をもとにして、各学生が自分だけのあたらしい台本を作り上げます。

絵解きの本番は、浄土真宗寺院で行われる仏教行事の一環として、お寺に古くから伝わる実物の絵伝を前に行います。聖徳太子の信仰が脈々と受け継がれる場で、多くの参拝者に対して聖徳太子絵伝を絵解くのです。自分たちの拙い絵解きを熱心に聴聞して下さる方々の顔を見ると、絵解きが信仰と深く結びついていたことを実感します。

このように、本授業では、中世の台本を読み解きあらたな台本をつくりあげる作業、また絵伝の前での絵解きという実践を通して、中世の人々が信仰した聖徳太子の世界に触れることが出来るのです。

[末松 美咲 (博士後期3年)]



善徳寺 (富山県南砺市城端) 虫干法会での絵解き実践の様子

最近の文学部

## 新緑の美しい季節です

名古屋大学の東山キャンパスは、東山公園の森に隣接する緑の多い自然の中にあります。この季節は、フレッシュな新入生と輝く新緑にあふれ、一年でもっとも美しい時期の一つでもあります。文学部棟の前にも大きなクスノキ他の並木があり、昨年ホームカミングデーで大学にお越しになった年配の同窓生の方が、「大きくなったなあ」と感慨の声を上げておられました。東山キャンパスができたのは1960年代のはじめ頃です。この大きな木々もその頃はまだ若木だったのでしょね。改めて見上げてみると、なるほど私が新入生のころ(すでに四半世紀が過ぎていますが...)と比べても、確かに木々はずっと大きくなり、風格も増しているのです。この木々はこれからも長く私たちやこれから入学される皆さんを見守ってくれるのでしょね。(U記)